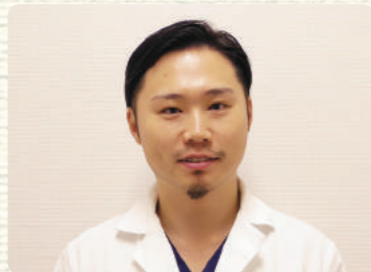


*
救急科
スタッフの
ご紹介
*



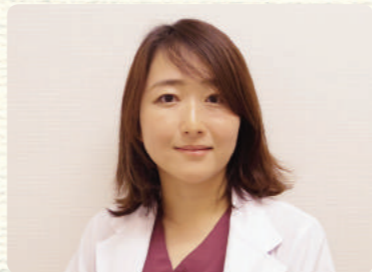
副院長/救急科部長
畑中 正行 (はたなか まさゆき)

- 専門分野
・消化器外科 ・肝胆膵外科 ・腹部救急
- 専門医認定/資格など
・日本外科学会認定医・専門医・指導医
・日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医
・消化器がん外科治療認定医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
・東京身体障害者福祉法指定医
(ぼうこう又は直腸機能障害の診断、小腸機能の診断)



医長
土方 利之 (ひじかた としゆき)

- 専門分野
・救急一般
- 専門医認定/資格など
・日本救急医学会救急科専門医
・日本麻酔科学会認定医
・厚生労働省麻酔科標榜医



医員
宮崎 百代 (みやざき ももよ)

- 専門分野
・救急一般



医員/脳神経外科兼務
森澤 華子 (もりさわ はなこ)

- 専門分野
・脳神経外科一般 ・脳卒中
- 専門医認定/資格など
・日本脳神経外科学会専門医・指導医
・日本脳卒中学会専門医



医員/総合診療科より出向
伊藤 涼 (いとう りょう)

- 専門分野
・内科一般

- 救急部スタッフ
特定看護師
若月 優子 (わかつき ゆうこ)

- 救急看護認定看護師
梅原 俊恵 (うめはら としえ)

IMSグループからのお知らせ

医療・介護のことでお悩みはありませんか？

IMSグループイムス総合サービスセンターが、みなさまからの医療・介護のご相談をお受けいたします。詳しくはホームページをご覧ください。

来訪もしくは、お電話かホームページ(メールフォーム)よりお問い合わせください。

FREE 0800-800-1632 (イムスに)
※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。 受付時間/平日8:30~17:30 土曜日8:30~12:30(日祝・年末年始休み)
03-3989-1141 (代表)

イムス総合サービスセンターのサービス内容や、IMSグループの最新情報をご覧ください。

<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-21-11 オーク池袋ビルディング8F

板橋中央総合病院 地域広報誌
PLAZA IMS(プラザ イムス) Vol.51 春号
発行:板橋中央総合病院 企画広報室
発行日:2018年4月

IMSイムスグループ 医療法人社団 明野会
板橋中央総合病院
〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2-12-7
TEL.03(3967)1181

— 理念 —
安全で最適な医療を提供し、
「愛し愛される病院」として社会に貢献する。

- 基本方針 —
1. 急性期病院として1人でも多くの患者さまのニーズに応えるために全力を尽くす。
 2. 他の組織や施設と密接に連携してシームレスな医療を構築し、地域のニーズに応える。
 3. 接遇マナーとコミュニケーション能力を備えた職員を尊重し、かつ育成する。



プラザ イムス 新年号 Vol.51
板橋中央総合病院

「プラザ イムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

救急医療それは“医療の原点”

当院では平成20年の救急外来(ER)創設以来、“救急は地域への最大の医療貢献である”との考えの下、着実に発展を遂げ、平成29年4月に救急科が新設されました。近年では年間の総受診者数約20,000名、救急搬送(救急車)台数9,000台となり、都内有数の救急病院となっています。救急科ではこれまでの外来診療に加えて救急科として入院診療も行っています。外傷や薬物中毒、複数の疾病を合併する患者さまなど幅広い疾患に対して積極的かつ迅速に受け入れを行い、入院の際には診療科が決定するまでの期間を救急科で担当いたします。診療科が決定しましたら、転科していただき専門治療を受けていただけます。また、重症度の高い患者さまにつきましては入院から退院まで救急科で診ることもあります。

当院は24時間手術可能な最新鋭の手術室、ICU、CCU、人工透析設備などを有する高度2次救急指定病院であり課せられた責任は多大なるものだと考えています。“今困っている患者さまを助ける救急医療”はまさに“医療の原点”であり、当院の目指すべき方向でもあります。愛し愛される病院として社会に貢献し、多くの地域の皆さまに満足していただけるよう尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

はたなか まさゆき
副院長/救急科部長 畑中 正行



救急科のご紹介



救急科って？

みなさんこんにちは！

みなさんは救急科と聞くとどんなことを思い浮かぶでしょうか？海外ドラマ『ER』やジャニーズJr.の山下智久さんが出演したことで話題となった『コードブルー』など、まさに命の危機が迫る患者さまに、ドクターヘリに乗って現場に出向き、その場の即座の判断で患者さまの命を救うスーパーヒーローのような印象が強いかもしれません。当院の救急台数は年間約9,000台、東京都内でトップ5に入る多さで全国的に見てもトップ10に迫る救急台数となっております。救急車で来られた患者さまの約10人に4人が緊急入院になっていきますので、ドラマのように毎回手に汗握る場面ばかりではありません。その点はドラマと大きな違いですが、ドラマが実話に基づいてしまったら全10話の中の4話しか出演者達の見せ場がなくなるので視聴率を考えたら毎回カッコいい場面は必要ですね。

さて、本題ですが、日本の救急は大きく3つに分けられます。町医者のような風邪などの患者さまを診察する1次救急、ドラマのような重症患者さまを診察する3次救急、そしてその中間の重症度の患者さまを診察する2次救急の3つに分けられます。当院の救急は2次救急となっていますが、中には重症患者さまも多く、2.5次救急の役割も担っております。

救急科は病院の入り口となり、受診した患者さまを診断し、初期治療を施し、その後より専門的な先生につなぐことが大きな役目となっています。もちろん、入院から退院まで救急科で診させていただき患者さまも多くいらっしゃいます。一般的な内科の疾患に加え、重症で集中治療管理が必要な方、多発外傷の方、熱傷や中毒の方など幅広い疾患の方を診させていただいております。複数の専門科にわたるような患者さまも救急科で入院していただき各専門科の先生方と

協力して治療していきます。

また、当院では一般の方を対象に医療の様々なテーマをお話させていただき無料公開医療講座を実施しております。救急科は『いのちの教室』という、主に小さいお子さんをお持ちのご家族や幼稚園の先生などを中心に小児の急変時の対応や熱傷、アレルギー、けがの対応などを年4回開催しております。ご興味のある方はぜひご参加ください。

簡単な救急科の紹介をさせていただきましたが、ここでは救急外来の役割について簡単にお話させていただきます。そもそも救急外来と一般的な内科の外来は何が違うのか？ずばり、患者さまの重症度と緊急度が異なります。こんなことを申し上げると、「みんな何かしらの緊急性があるから病院を受診してるんだよ!!」とお怒りになる方も多くいらっしゃるかもしれませんが、当院の外来を受診される患者



トリアージって？

もともとの語源は「選別」を意味するフランス語の「triage」から来ています。限られた医療資源の中でより多くの負傷者を救うことを目的としており、一般的に知られるようになったのは23年前の阪神淡路大震災の時です。救急外来で行われるトリアージ

は院内トリアージとも呼ばれ、患者さまの状態をまず簡単に診させていただき、緊急度、重症度が高い患者さまから優先的に診察にあらせていただいております。患者さまのご協力によって緊急性の高い患者さまが多く助かっています。

救急外来を受診する前に・・・

現在飲んでいるお薬やお薬手帳、これまでの病気の記録や血圧手帳など普段の生活を知ることが患者さまの治療に大きく役立ちます。緊急時で焦る気持ちは大変よくわかりますがもう一度ご受診の前に持ち物をご確認ください。

- ・お薬手帳
- ・お薬
- ・これまでの病気がわかるもの
- ・健康診断の結果
- ・血圧帳
- ・ペースメーカー手帳

【終わりに】

当院は様々な疾患に対応できる病院となっております。地域に根ざし、安全で最適な医療で社会に貢献できるよう頑張りたいと考えております。困った時はぜひ板橋中央総合病院を受診してください。全力で対応させていただきます。